

生活環境と学習行動の相互作用による社会人基礎力定着プロセス

Processes for establishing Fundamental Competencies for Working Persons through the interaction between life environment and learning behavior

坂井 和貴†
Kazuki Sakai

中平 勝子†
Katsuko T. Nakahira

北島 宗雄†
Muneo Kitajima

1 はじめに

近年、学生の学習能力だけでなく、一人の人間として生きていく能力としてジェネリックスキルが注目されている。ジェネリックスキルとは職場や日常生活の中で必要となる能力のことであり、また、あらゆる職業を超えて活用できる移転可能なスキルである [1]。日本においては内閣府による人間力、厚生労働省による就業基礎力、経済産業省による社会人基礎力など様々な形でジェネリックスキルが表されている。これらの各能力は、他者からの教育や自らの学習によって育まれるものとされている。本稿では、特に、社会に出るために学生のうちに身につけるべき能力として定義される社会人基礎力に着目する。

本稿では、大学生が4年以上の長期にわたり自らの能力を自律的に育成する機会である大学生活に着目する。学生生活は自己コントロールが重要視されることから、それを活かして獲得・強化されるであろう社会人基礎力を学生を取り巻く生活環境と、その刺激を受けた結果生じる学習行動の相互作用と捉え、その定着プロセスを理解する。

2 生活環境と学習活動

ここでは、社会人基礎力の定着プロセスを理解するための手法として、個人特性/社会経済的特性、学生が持つ現状スキル、およびそのスキルの変化を、生活環境と大学生活における学習活動の観点から枠組みを作ることを試みる。

生活環境・生活習慣は一人暮らしや実家暮らし、大学までの交通事情、部活動やサークル活動の有無など学生によって異なる。それぞれが異なった生活環境の中で、どのような活動を行うのかは学生自身の志向に左右される。大学での講義や実験、研究に最も時間を費やす学生もいれば、アルバイトやボランティアなど学外での活動に時間を費やす学生など様々である。

社会人基礎力は移転可能な能力であるため、基本的に教育・学習を通じて、獲得・強化といったプラス方向に変化する。そのため、社会人基礎力を育成させるためには、実生活のなかでより多くの時間を学習活動に費やすことが望ましいと考えられる。学習活動と社会人基礎力の関係を調べるために坂井ら [2] は、学生の生活における時間の使い方によって学生をタイプ分けし、各タイプの学生が自身にどの程度の社会人基礎力が身についているかというメタ認知について調査した。結果として、学習活動に多くの時間を費やしている学生タイプが最も自身について社会人基礎力がついていると感じているということが分

かっている。

3 社会人基礎力定着プロセス

社会人基礎力などスキルの獲得、強化、陳腐化の概念、因果関係については OECD [3][4] によって整理されている。この概念図はすでに社会に出て就職している人を対象としてまとめられたものであるため、学生には当てはまらない項目が存在する。本稿では、学生におけるスキルの変化に着目するために、学生としての視点で概念図を作成した。学生の社会人基礎力の定着プロセスを図1に示す。以下に各要素について説明する。

3.1 個人特性

学生の生活に影響を与えるのは学生の個人的・社会経済的特性である。この特性には学生個人を形作る要素として年齢、性別、性格特性、学習戦略などがある。これらの項目は他者からの影響によって変化することが少なく、その学生個人を形作っているものでもある。そのため、この個人特性によって学生がどのような生活を送るのかを決定づけるものになると考えられる。ここでの学習戦略とはどのような学習方法、学習形態が自

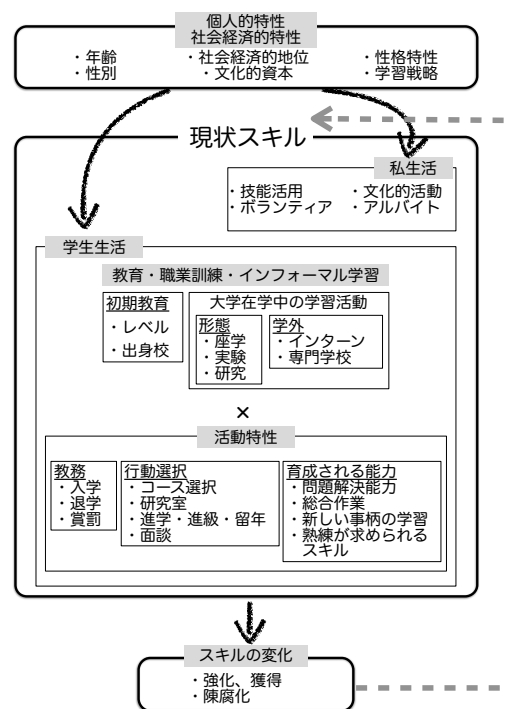


図1 社会人基礎力定着プロセス

†長岡技術科学大学

身にとって学びやすいか、合っているかということを表す。

3.2 私生活と学生生活

学生は現状におけるスキルを持った状態で、生活を送り、さまざまな活動に取り組む。生活は教育に関する学生生活と、それ以外の時間として私生活に大別される。私生活はボランティアや読書などの文化的活動、アルバイトなどの要素が当てはまる。学生生活は教育、職業訓練、インフォーマル学習とそれぞれの活動に対する活動特性との相互作用で成り立っている。教育は現状に至るまでに受けてきた中学・高校のレベルや普通、工業、商業など学校の特色としての出身校の要素を持つ初期教育と現状である大学在学中の学習活動の二つに分けられる。大学在学中の学習活動には大学内での活動として講義などの座学や実験、研究の形態別の学習活動があり、学外での活動として企業でのインターンや他の専門学校に通うなどの学習活動が存在する。座学や研究、インターンなどの各要素に対してそれぞれにコース選択や研究室、新しい事柄の学習など活動特性の要素が関わってくる。

3.3 スキルの変化

スキルは私生活・学生生活において取り組んだ活動によって獲得・強化、または陳腐化される。きちんと学習に取り組み、スキルが育成された場合は新たに獲得・強化される。しかし、学習に取り組んだがうまく学習されなかった場合や、学習に取り組まなかった場合はスキルは陳腐化される。

この陳腐化については二つあり、一つ目は私生活・学生生活の両方で使わなかったことにより劣化してしまう場合である。二つ目はスキル自体は現状維持を保っているが、時代の移り変わりにより、結果としてスキルが劣化状態となってしまう場合である。そしてこのスキル変化の項目によって獲得、強化、陳腐化されたスキルがまた学生自身の持つ現状のスキルとなる。時間経過によって自身のスキルが変化し、その現状のスキルを持った状態でまた新たな活動を行うというループをする状態となる。

4 定着プロセスを利用した学生のスキル変化例

坂井ら [2] の調査データを用いて学生の社会人基礎力の定着プロセスの実例について説明する。

4.1 スキルの獲得・強化例

個人特性は 23 歳、男性で生活環境としては一人暮らしである。私生活では文化的活動として読書や新聞を読むといった活動を行っている。

学生生活では大学内での講義や実験、研究に費やす時間が週に 21 時間以上であり、さらに大学での授業に関する勉強もまた週に 21 時間以上行っている。

大学内での座学では活動特性として単位を取ることや授業内容が自身の研究に役立つとすると進学・進級といった行動選択に関係したり、育成される能力として、新しい事柄の学習がある。

実験は教員主導で行うものであり、あらかじめ決められた手順を行うものであるが、学生が自身で器具を使ったり、プログラムを書いたりするものである。活動特性として、総合作業、

新しい事柄の学習がある。

研究は学生自身が主動として行うものである。活動特性として研究室ごとの活動や進学・進級のための行動選択があり、育成される能力として問題解決能力、総合作業、新しい事柄の学習、熟練が求められるスキルがある。

学習活動に多くの時間を費やした結果、この学生の社会人基礎力は、特に計画力、課題発見力、実行力、主体性の四つのスキルが強化・獲得された。

4.2 スキルの陳腐化例

個人特性は 23 歳、男性で生活環境としては祖父母の家に住んでいて同居人がいるという状態である。

私生活では、娯楽のためのパソコン使用や漫画や雑誌を読むことに費やす時間が多い。

学生生活では、授業や実験に費やす時間がほとんどなく、それに関連する自主学習のみを行っている状態である。

スキル変化の過程を経た結果、この学生は特に創造力、課題発見力、働きかけ力の三つのスキルが陳腐化された。

もちろん自主学習でも社会人基礎力が獲得・強化されることはあるが、前述したように社会人基礎力は移転される能力である。そのため、自主的な学習活動だけでは大きく育成されることが難しくこの学生の場合はスキルが陳腐化してしまったと考えられる。

5 まとめと今後の課題

社会人について整理されたスキル変化の概念図をもとに学生に特化した社会人基礎力定着プロセスを作成し、学生の実例を紹介した。

今後の課題として、この定着プロセスをもとにどのような教育・学習がどのような社会人基礎力定着の助けとなるのか調査が必要である。また、eポートフォリオなどの時間経過による学生の実態調査などと組み合わせることによってさらに詳細な社会人基礎力の遷移、繊維のきっかけとなる事柄の詳細な分析ができるだろう。学生自身がまだ身につけていないと感じるスキルを育成するために適した教育や学習が分かれば、学生自身の学習のしやすさだけでなく教える側にとっても教育がしやすくなると考えられる。

社会人基礎力のメタ認知が高まると学習活動に費やす時間が多くなるので、さらに社会人基礎力を伸ばしていくといういい循環を生み出すことができると考えられる。

参考文献

- [1] <http://www.keinet.ne.jp/gl/11/11/report1111.pdf>(accessed2015.1.8)
- [2] 坂井和貴, 中平勝子, 北島宗雄, "学生生活満足度向上支援のための社会人基礎力のメタ認知と満足度に関する調査", 第 39 回教育システム情報学会講演論文集, pp.129-130, 2014.
- [3] PIAAC-NPM(2009,2,1)BQ V5.0 Conceptual Framework.doc
- [4] 国立教育政策研究所内国際成人力研究会編, "成人力とは何か-OECD「国際成人力調査」の背景", 2012, 明石書店.